

「世界平和のために日本がすべきことを考えよう」

3年社会科 公民的分野

I 実践の目指しているもの

- ①既習事項を活用し、世界平和の実現のために我が国が果たすべき役割を考える。
- ②日本国憲法の「平和主義」について理解を深める。
- ③時間軸上で「現在」を捉え、その「現在」をグローバルな視点で捉える。その上で国際協調の大切さとそのための国際貢献の必要性を理解する。

II 研究の内容

1 題材名（単元名）

第5章 地球社会とわたしたち 1節 国際社会と世界平和

2 題材の目標（単元の目標）

- (1) 戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育て、人間の生命の尊さと平和の尊さを考えることができる。 【関心・意欲・態度】
- (2) 世界の平和をいかにして実現すべきかということについて多面的・多角的に考察しその結果を適切に表現することができる。 【思考・判断・表現】
- (3) 過去と現在の戦争に関する資料から戦争の背景や世界平和のために必要なことを読み取ることができる。 【技能】
- (4) 国際政治は国家間の観点に基づいて国家間の対立の克服を試みるものであることを理解し、その知識を身に付けることができる。 【知識・理解】

3 題材の指導計画・単元構成など

1節 国際社会と世界平和（7時間扱い） ①地球のさまざまな姿 ②国際社会における国家 ③国際連合のしくみと働き ④地域主義の動き	⑤調べ学習 過去 「戦時下の国民の生活」 ※札幌市平和バーチャル資料館 「札幌市民の戦争体験、映像証言」活用 ⑥調べ学習 現在 「世界で起きている戦争」 ⑦世界の平和のために～1時間（ 本時 ）
--	--

戦後70年の節目である今年は先の大戦を振り返る格好の機会である。夏ごろには、過去何度か出されてきた首相「談話」が出されるはずである。内容に関する意見はそれぞれあるにしろ、再び戦争の惨禍が起こることのないよう、「世界平和の実現と人類の福祉の増大」のために我が国がすべきこと、日本国民としてすべきことを考えさせていく必要がある。その第一歩が日本国憲法の平和主義についての理解であり、戦後70年間戦争をせずに歩んできた日本だからこそできる国際貢献について考えることであろう。

戦争の原因や背景は、民族や宗教の対立、貧困や飢餓、資源の争奪などが複雑に絡み合っている。ただそれらは多くの場合人為的なものである。地政学的には戦争に巻き込まれる危険と隣り合わせでありながら、平和を維持している日本。一方で世界では戦争、内戦が多発している。パレスチナ問題やウクライナ問題、シリアやイラクの内戦、日本人も被害者となった「イスラム国」問題と枚挙にいとまがない。世界との比較から現在の日本の平和を考えさせたい。

過去、太平洋戦争では激戦を繰り広げた日本。現在は平和であるが、この平和が将来にわたって続く保証はない。平和維持のための「不断の努力」が必要である。そこで大事なことは「過去があって、現在があり、現在があって、将来がある」といったふうに、時間軸の上で「現在」を捉えることである。すなわち、現在だけが特別な時間帯ではなく、現在を将来のための通過点として捉えることだ。「現在」は時間軸上の点でしかないのだから、現在起こっていることに一喜一憂せず、着実に進行している大きなゆっくりとした社会変化を捉え、将来のために今何をすべきかを本単元では考えさせていきたい。

この時間軸思考ができれば急速に進むグローバル化への対応を誤る可能性も大きく低下する。ヒト・モノ・カネそして情報が一瞬にして世界をかけめぐるグローバル化した世界。その是非はともかく、現在の国際社会における国際協調の重要性は前世期の比ではない。かつての日本の戦争も協調路線を外れ孤立化してしまったことが一因となっている。同じ轍を踏まないためにも、国際協調につながる国際貢献が必要である。地球環境問題、資源・エネルギー、貧困などの課題。多くの先端技術をもつ我が国だからこそ解決可能であり、経済的・技術的な協力こそが国際貢献となる。様々な国際貢献について多面的・多角的に考えさせたい。

4. 本時について

(1) 本時の目標

日本の平和と世界の戦争について、その理由や原因を把握し、世界平和のために日本がすべき国際貢献について考える。

【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開

過程	○生徒の学習活動 ※予想される生徒の言動 ●教師のかかわり	留意点・資料
把握 10分	<p>○既習事項の復習 「戦争とは何か？」</p> <p>過去 戦時下の国民の生活 職業軍人だけでなく多くの民間人が戦争に関与</p> <p>現在 世界で起きている戦争 イラクやシリアの内戦、パレスチナ問題</p> <p>●戦時中との比較、外国との比較から現在の日本は「積極的平和」の状態であることを確認</p> <p>●「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する」平和主義について確認する。</p> <p>学習目標 「世界平和のためにできることを考え、それを表現できる」</p> <p>学習課題 : なぜ、日本は平和なのに世界では戦争がなくなるのだろうか？ 『戦争の原因を考え、世界平和のために日本がすべきことを考えよう』</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループ隊形で着席 札幌市平和バーチャル資料館 札幌市民の戦争体験、映像証言 パワーポイント 写真 憲法前文
追究 30分	<p>●ワークシート配布</p> <p>○生徒個人の活動：「日本の平和」と「世界の戦争」の原因をワークシートに記入 ※平和主義、日米安保、民族や宗教の対立、貧困や飢餓</p> <p>●戦争の原因を確認</p> <p>●日本が戦争を行ったとき、国際社会から日本は孤立していたことを思い出させる</p> <p style="text-align: center;">国際協調と国際貢献の必要性</p> <p>○学習グループで活動：話し合い、日本が（自分たちが）すべきことをまとめる ※ODAの充実、核兵器廃棄の訴え、平和主義を広める グループの意見の発表者を決め、準備</p> <p>●グループの意見が、戦争の原因を解決・改善するものであることをこころがけさせる</p> <p>○グループごとに発表</p> <p>課題解決 : 戦争の原因を把握し、平和のためにすべきことを考え、それを説明できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ワークシート 班の代表2名
整理 発展 10分	<p>●他グループの意見を聞いて分析し、自分の意見をまとめる できれば、ワークシート B C に触れながらまとめる</p> <p>※世界の貧困をなくすために、ODAを充実させるべきだ ※現在、戦争が起きている国で平和主義を訴えても効果はない ※日本以外の戦争していない国も参考にしよう ※被爆体験記や平和主義を広めて、軍縮の流れをつくるべきだ ※テロ集団が存在する以上、それを上回る軍事力を持たなければいけない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 他者の意見に対しての批判があってもよい

5 実践のポイント

①生徒に当事者意識をもたせる

生徒にとっての「戦争」は遠い過去のできごとであり、遠い世界のできごとである。極端なことを言えば、関ヶ原の戦いも第二次世界大戦も子どもにとっては同じ過去のことであり、残念ながら、世界の戦争も自分事とは捉えがたい。

世界の平和を考えるためには、当事者意識をもつことが不可欠である。そのために2回の調べ学習を行い、1回目は札幌市平和バーチャル資料館「札幌市民の戦争体験、映像証言」を活用した。特に「戦争中、月寒に軍隊があった!」と「私は十五歳、特別年少兵!」を読ませることで、地元の月寒も戦争に関わっていたことと、今の自分と同じ年代の少年が戦争に参加していたことを知り、戦争を実感することができた。

2回目は自分が生まれてから現在までの期間に起きている世界の戦争について調べさせた。シリアやイラク、ウクライナなどその数の多さと悲惨さから改めて日本の平和を実感しつつ、その平和も戦争と隣り合わせであることも実感できるようになった。

②平和主義への理解を深める

「平和主義 = 第9条」のイメージが生徒にはあるが、積極的平和のために、前文を強調した。

前文の『われらは、の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有する』の部分をパワーポイントで表示し空欄にあてはまる言葉が「全世界」であると知った時に、生徒の視野が広がった。平和主義は日本国内だけのものではなく、平和主義の日本だからこそできる国際貢献について考えるようになった。

③発信と受信の工夫

グループで出した意見を代表者が発表するときはシンプルに画用紙を利用。画用紙にはダイジェスト的な内容にとどめ、意見の根拠や実現に向けた手段などは口頭で説明させた。また、発表を聴く際にはワークシートをA B C Dの4つの欄に分け、賛成か反対か、現実的か非現実的かというように分析させることで論理的に情報を処理させた。その上で、最終的な自分の意見を書かせることで思考の揺さぶり、深まりがあったのではないかと思われる。

〈授業の再構築〉

本時では、世界平和のために日本がすべきこと (= 国際貢献) について考えさせた。単元目標 (2) に「世界の平和をいかにして実現すべきかということについて多面的・多角的に考察しその結果を適切に表現することができる。」と掲げた、まさにこの部分である。宗教や民族など多面的に考察することはできたが、「多角的」に関しては課題が残った。「誰が、何に対して、何をできるか?」というように、より具体的に指示を出し考えさせる必要がある。

- 例 「政府が、戦争当事国に対して、何をできるか?」
「政府が、世界の国々に対して、何をできるか?」
「政府が、国連に対して、何をすべきか?」

なぜ、日本は平和なのに世界では戦争がなくならないのだろうか？

『戦争の原因を考え、世界平和のために日本がすべきことを考えよう』

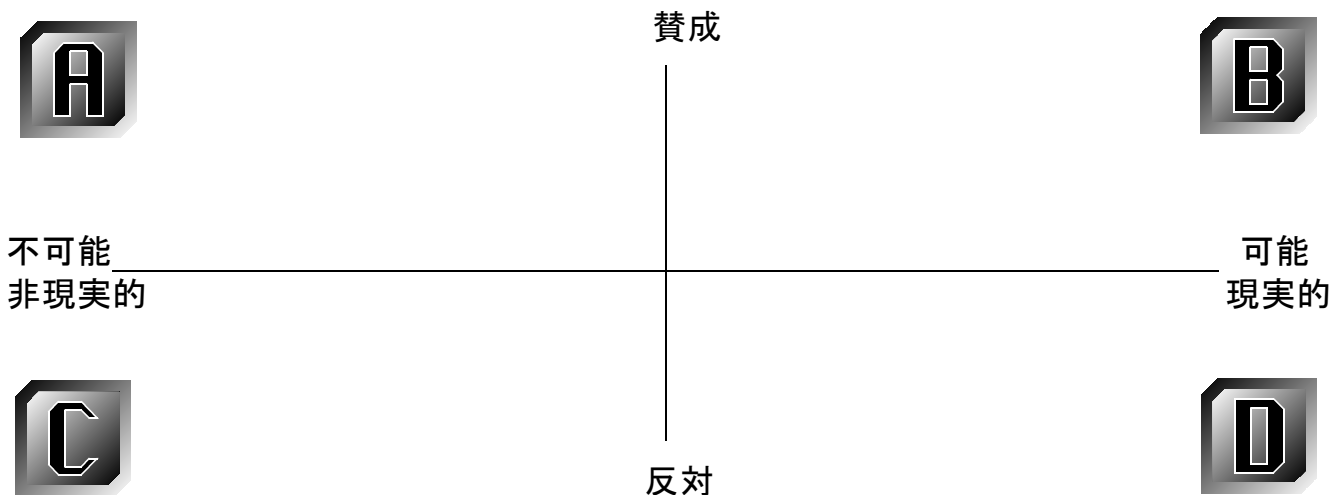
なぜ日本は平和なのか？

なぜ世界では戦争が起きているのか？

戦争にも平和にも人為的な原因や理由がある。つまり戦争は自然災害のように「_____」ものではなく、人間が「_____」ものである。そうであれば、人間の考え方と行動で平和な世界を築けるはず！

世界平和のために日本がすべきこと(班の意見)

他グループの意見を聞いての分析メモ(実現可能で賛成できる意見はB欄、非現実的で反対ならC欄に)



世界の平和に向けて(自分の意見)